

学校危機時には、子どもや保護者だけでなく学校全体の運営も不安定になることがあります。子どもの場合、家庭や学校といった日常生活の中で、少しずつ安心感を取り戻していくことが、回復の第一歩になります。まわりにいる大人は、子どもに寄り添い、見守ることが大切です。学校運営上は、教員が子どもや保護者と落ち着いて向かい合える環境を作ることが大切です。

学校は、子どものケアができる場所です。子ども同士で支え合うことができます。また異なる役割や知識、経験、技量をもった「教員のチーム」で対応できます。そして学校は、保護者についての情報を得られやすい、助言などの働きかけのしやすい位置にあります。管理職の方には、学校、子ども、保護者を支援していくことが求められます。

いつもと変わらない学校生活を大切に

「特別な配慮をしなければならない」と思いがちですがいつもどおりの生活をすることも大切です。それが自然なこころの回復につながります。

学校危機時の学校運営の7つのポイント

【教員自身の気持ちを整理しましょう】 教員の気持ちが動揺しているときは、学校の日課を調整し、緊張をほぐすための話し合いの場を設けたり、いま感じている不安や思いを共有したりすることも有効かもしれません。

【まちがった情報やうわさがとびかうことに注意しましょう】 子どもが過剰に反応したり、動揺したりすることのないように、伝える内容や方法に配慮をしましょう。子どものわかる言葉で簡潔に伝えるよう教員に助言しましょう。

【子どもの不安定な気持ちに対応しましょう】 子どもが、悲しみや困惑、不安、自責感といったさまざまな気持ちを持ち、混乱することがあります。感じ方は子どもによって異なります。子どもの気持ちを一方的に決めつけたり、安易に励ましたりせず、どんな気持ちも大切に受け止めるよう、教員に助言しましょう。そのために、子どもが一人で気持ちを抱え込まないで、教員やスクールカウンセラーに話ができる場や機械を設定しましょう。

【先生方のこころのケアも大切にしましょう】 先生方が「自分だけでなんとかしなければ」と抱え込まないように配慮しましょう。校内の教員でサポートしあう体制をつくり、連携をとりながら対応していくことが大切でしょう。

【保護者との連携を密にしましょう】 家庭と学校では様子が違うことがあります。保護者と情報交換をすることが役立つでしょう。

【教育委員会や近隣の学校との連携を図りましょう】 教育委員会や近隣の学校と連携を図り、情報の共有をし、協力しましょう。

【専門家との連携も視野に入れましょう】 必要なときは、専門家（スクールカウンセラー、小児科医、精神科医、児童相談所など）に相談することも考えましょう。